

# 薬草園の花だより

第7号

2018年(平成30年)1月11日発行

## ■第7号に寄せて

新しい年を迎え、皆さんそれぞれに期するところがあると存じます。薬用植物園にては今年も種々の催し物を計画しています。皆さまの御参加を心からお待ち申し上げております。

さて、若干時期を逸してしまいましたが、昨年末の本学キャンパス内の紅葉はここ数年のうちでも最も見事なものだったと思います。右はそのうちのカエデの紅葉です。植物は実に美しい感動を与えてくれるものですね。

私たち人類はその誕生以来、様々な植物たちと共に存し、その中に何らかの作用のあるものも見いだしました。いわゆる薬用植物や毒草といわれるものです。私が学生のときに薬用植物学の講義を担当されていた竹本常松先生は「全山の草木ことごとく薬草薬木」と喝破されました。この意味するところは、いかなる植物にも薬用として使える可能性があるのだから、その有用性を見つけ出すのが私たち薬学徒のつとめであるということでした。それゆえ、一木一草たりとも無為に見過ごしてはいけないということでしょう。薬用植物園にはすでに薬用として使われている植物の他、今後、薬用として使われる可能性のある植物も栽培されています。きれいな花や実をつけるものも多いので、これらを楽しみに見ることから薬草に興味を持つことも大いに結構なことと存じます。多くの学生・教職員に薬用植物園に足を運んでいただき、様々な植物となじんでいただきたいと思っています。(船山)



昨秋のカエデの紅葉の様子（キャンパス内にて）

## ■今咲いています・見頃です

### 《パパイア》

パパイア (*Carica papaya* パパイヤ科) は雌雄異株の高木で、その果実は幹に直接着くように結実します。今、その様子がちょうど見られます(註)。生食も出来るパパイアにはタンパク質分解酵素であるパパインが含まれています。本来はもっと多くの果実が着くのでしょうか、この段についてはパパイアを栽培して実を多く収穫するのが目的であるプロではないのですから御容赦を。



パパイアの花(上)と果実(左)

註：残念ながら、2018年1月10日(水)に突然落果してしまいました(陳謝)。

### 《キダチアロエ》

キダチアロエ(ツルボラン科)は各種のアロエの中でも広く栽培されていますが、その花が咲いているのを見たことがありますか。今、温室にてその赤い花が満開です。アロエは別名を盧會(ロカイ)とか医者いらすなどともいい、この仲間の植物はわが国の民間にて火傷や切り傷などに応用されてきました。その含有成分としては、アロエ・ヴェラ (*Aloe vera*) からアロインなどが得られています。



キダチアロエ

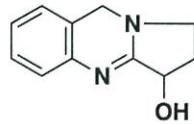


アダトダ・ヴァシカ

薬用植物園の温室でアダトダ・ヴァシカ (*Adhatoda vasica*) が白い花を咲かせています。この植物は、インド・ネパール・パキスタン・ビルマ・マレーシアなどの熱帯アジアに分布しており、インドの北西部に連なるパキスタンのパンジャブ州では州花になっているとか。キツネノマゴ科に属する常緑低木で、葉にバシン(vasicine)というアルカロイドを含みます。このアルカロイドには気管支を拡張する作用があると言われ、咳などの呼吸器系の障害に対する民間薬として古くから応用されています。バシンはまた、ハマビシ科のハーマラ (*Peganum harmala*) の種子(ハーマラ子)からも得られることからペガニン(peganine)とも呼ばれています。バシン(ペガニン)の水酸基の結合方法(立体化学)についてはRであるとの報告

とSであるとの報告の双方があるので、ここでは立体を示さないことにしました。

バシシン（ペガニン）については珍しい骨格と生合成経路を有するアルカロイドとして旧知のものでしたが、その基原植物が本学にもあることは最近まで気が付かませんでした。



バシシン(ペガニン)

## ■他にもこんな植物が見られます

### 《ガーデンシクラメン》

先日、NHKの人気番組「趣味の園芸」のアーカイブ編として、2001年に放送された戦後の園芸史についての対談が再放送されていました。故・江尻光一先生が出演しており、興味深く拝見。その中でシクラメンのブームが1975年前後に巻き起こったということでした。今でもシクラメンは人気室内園芸植物です。ただ、シクラメンは部屋で栽培するというイメージが続きましたが、小型のガーデンシクラメンと称されるものは寒さにとても強く、雪をかぶった中でも花を着けます。



ガーデンシクラメン

### 《ポインセチア》

ポインセチア（トウダイグサ科）はメキシコ原産の常緑低木です。枝先の葉は節間が詰まって着色した輪生状となり、緑色の葉の中心に赤い葉があるものは、まさにクリスマスカラーとなることから、時期的に、年末から多く室内にて栽培されます。このごろは、中央の色がピンクのものもあり、プリンセチアなどという名前で売られているようです。この植物をちらと見てトウダイグサ科の植物と判断された方はかなり、植物との馴染みが進んだ方といえましょう。実際にこの植物の属名は *Euphorbia* です、この仲間の植物には有毒成分を含むものが多いのです。ということは薬用としての応用も期待されるという意味でもあります。



ポインセチア

### 《サザンカ》

童謡の「たき火」の2番「さざんか さざんか さいたみち たきびだ たきびだ おちばたき

～」は郷愁を誘いますが、今や路上での焚き火は禁止されており、思い出の中だけにある風景となりました。

ところで、いずれもツバキ科であり、お互いに花の似ているツバキ (*Camellia japonica*) とサザンカ (*C. sasanqua*) を区別できますか？ 一般にツバキが春に咲くのに対してサザンカは冬になりかけの頃から咲く

というようなイメージもありましょうが、ユキツバキの



サザンカ(キャンパス内にて)



サザンカ(花びらの散り方)

ように冬に咲きはじめるツバキもあります。また、ツバキが花の形のままボトリと散る（これを斬首と感じ、そのためにツバキはかつて武士階級には嫌われたとか）のに対し、サザンカは花びらがバラバラになって散るという区別法、葉の大きい方がツバキという区別法、さらには葉の縁にはっきりとしたギザギザのあるのがサザンカで、これがないのがツバキ、葉柄から主脈にかけて褐色の纖毛のある方がサザンカなどという区別法もありますが、両者の交雑種もあって、なかなか難しいこともあるようです。なお、椿という文字は「和字」であり、漢名は「山茶」です。一方、サザンカは山茶花が訛ったものと言われますが、牧野富太郎先生によれば、山茶花とは本来は椿のことをさすので、この使い方は正しくないこと。ツバキの種子からはツバキ油が得られます。

## ■薬用植物園からのお知らせ

### 《ユズ茶はいかがでしょうか》

先の「薬草園の花だより第6号」にて今年は薬用植物園のユズがたくさん結実したことをお知らせしましたが、このユズを使って香りの高いユズ茶（～50人分位）を作り、皆さんにも楽しんでいただこうということになりました。

提供の日時は、1月22日（月）12：00～14：00、場所は薬用植物園の温室の中央にある準備室です。皆様のお越しをお待ち申しあげております。この機会に、ついでにぶらりと温室内なども御覧ください。

発行：日本薬科大学薬用植物園運営委員会  
 委員長（薬用植物園長）／船山信次  
 副委員長／山路誠一  
 委員（教員）／野口博司・西川由浩  
 新井一郎・糸数七重  
 委員（事務）／今村隆・笹井彰・鈴鹿和子  
 土屋翔太郎・天野崇教・黒木重夫